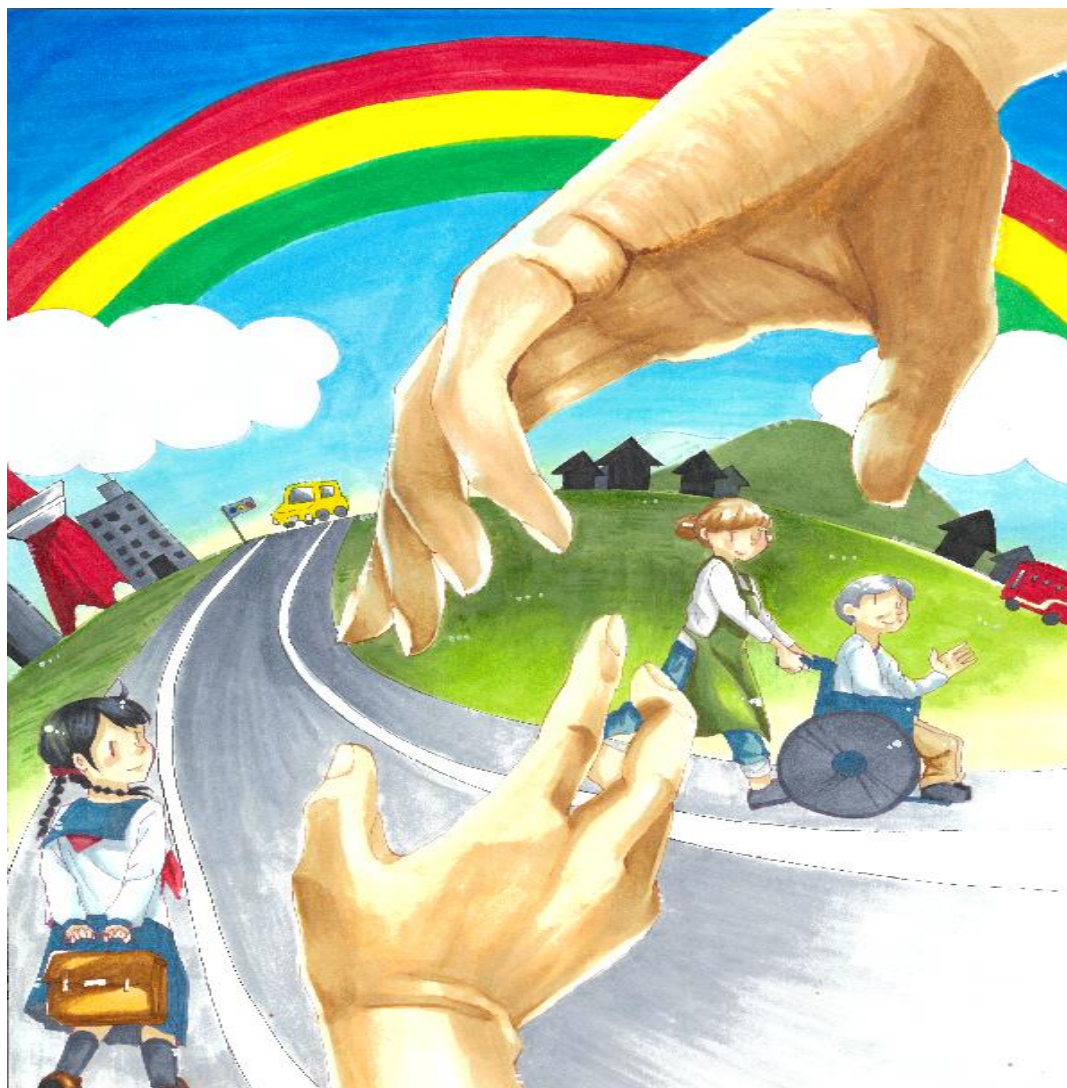


## 第3期みどり市地域福祉活動計画

みんなが輝く どんなときも支え合える 理想のまち

### 取り組み状況と評価



計画期間	令和2年度～令和6年度
評価年度	令和4年度（第3年次）

みどり市社会福祉協議会

# 目次

<b>はじめに</b>	<b>1</b>
1. 評価の目的 2. 表の見方 3. 評価の集計結果	1
<b>基本目標 1 みんなが輝いて暮らせる地域づくり</b>	<b>2</b>
活動方針（1）安全で安心して暮らせる地域づくり	2
活動方針（2）地域で生活に困っている人への対応	4
活動方針（3）地域で高齢者・障がい者・子どもを守り支える仕組みづくり	5
<b>基本目標 2 地域課題が解決へとつながる仕組みづくり</b>	<b>7</b>
活動方針（1）気づきを共有する仕組みづくり	7
活動方針（2）地域住民の課題や相談を包括的に受け止める体制整備	8
活動方針（3）地域の課題を解決するための公私協働の実現	9
活動方針（4）福祉に関する情報伝達の充実	10
<b>基本目標 3 地域福祉活動の担い手づくり</b>	<b>11</b>
活動方針（1）地域福祉の意識向上と仲間づくり	11
活動方針（2）地域住民が集う拠点整備と既存施設の活用	13
活動方針（3）地域住民・ボランティア団体・NPO等の地域福祉活動の活性化	14
活動方針（4）民生委員・児童委員活動の充実に向けた環境整備	16
<b>基本目標 4 福祉の基盤づくり</b>	<b>17</b>
活動方針（1）地域福祉推進の強化	17
活動方針（2）地域づくりや福祉課題解決のための財源の確保	18

# はじめに

## 1. 評価の目的

第3期地域福祉活動計画では、第1期、第2期計画を継承して「みんなが輝く どんなときも支え合える 理想のまち」を基本理念とし、4つの基本目標を定めて令和2年度から令和6年度までの5年間で目標に向けて各事業を実施します。そのなかで、評価年度の各事業の成果と課題を評価・分析し、課題解決に向けてより効果的な事業を実施することを目的としています。

## 2. 表の見方

現状と課題	第3期計画に記載されている、策定時に把握した地域の課題を記載しています。
社協の役割	把握した地域課題の解決のために、第3期計画で定めた社協の役割を記載しています。
取り組み・事業名等	社協の役割に基づいて計画期間内に社協が取り組んだ事業名等を記載しています。
評価	各取り組み・事業を下記に基づいて評価しています。 A 前年度より成果・内容等が充実した B 新たに取り組んだ C 前年度と同様の成果・内容で実施した D 前年度より取り組みが不十分であった E 検討・調査・研究にとどまり、実施には至らなかった F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した G 実施年度、または調査年度に該当しなかった ※ 第3期計画で成果指標を定めた取り組み・事業等については、目標値に対する実績値も記載しています。
成果と課題	社協の役割に基づく主な成果と課題を記載しています。
今後の目標等	社協の役割に基づく次年度以降の重点目標を記載しています。

## 3. 評価の集計結果

評価	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	令和6年度
A	14個	14%	13個	13%	34個	37%		
B	7個	7%	4個	4%	4個	4%		
C	26個	27%	51個	51%	48個	47%		
D	0個	0%	0個	0%	1個	1%		
E	6個	6%	6個	6%	4個	4%		
F	42個	43%	23個	23%	4個	4%		
G	3個	3%	3個	3%	3個	3%		
合計	98個	100%	100個	100%	98個	100%		

# 基本目標 1 みんなが輝いて暮らせる地域づくり

## 活動方針 (1) 安全で安心して暮らせる地域づくり

<b>現状と課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防犯対策、防犯設備の整備が進んでいません。</li> <li>・ 歩道や信号などの設備が十分でないため、交通が危険なところがあります。</li> <li>・ 空き家や耕作放棄地があり、防犯・防災の面で心配です。</li> <li>・ 災害時の避難に支援が必要な人がいます。</li> <li>・ 災害への備えや、災害時の避難の仕方が分からない人がいます。</li> </ul>
--------------	---

社協の役割	取り組み・事業名等		R2	R3	R4	R5	R6
地域が実施する防犯活動や防災活動を支援します。	市民活動支援用具貸出事業	評価	A	C	C		
	地域福祉活動推進事業補助金交付	評価	A	C	C		
	BCPの策定	評価	—	E	E		
	<b>成果と課題</b>	福祉部の会議を開催することで各地区の自主防災訓練や防犯パトロールに取り組んだ情報を共有することができた。また財源に地域福祉活動推進事業の補助金を活用した地区もあった。地域で活動が活発になるよう、実施前に情報を把握し、現地に赴く必要がある。					
	<b>今後の目標等</b>	防災・防犯活動の現地に赴き、住民のニーズに直結する支援ができるよう情報収集を行うとともに、災害発生時においてもできる限りサービスを提供できるよう、事業継続計画（BCP）を策定する。					
災害に備え、災害ボランティアセンターの機能を強化します。	災害ボランティアセンター設置運営訓練（目標値 1回）	実績値	0回	0回	1回		
		評価	F	B	A		
	災害時の支援資機材等の備蓄・整備	評価	C	C	A		
	災害時の他機関との連携	評価	E	A	A		
	<b>成果と課題</b>	市と連携し、市防災訓練実施時に、災害ボランティアセンター設置運営訓練を実施し、マニュアルの確認をすることができた。さらに、市と災害ボランティアセンターの設置・運営等に関する協定を締結することができた。本市や他市への災害支援を行うことで、資機材等の備蓄整理の必要性や関係機関との連携強化の必要性を認識した。					
	<b>今後の目標等</b>	商工会や青年会議所等の関係機関と協定の締結に向けて検討する。					
災害時の支援者を育成するとともに災害ボランティアグループの活動を支援します。	災害ボランティアの会会員数（目標値 40人）	実績値	19人	14人	0人		
		評価	F	F	—		
	災害ボランティア養成講座	評価	F	F	B		
	<b>成果と課題</b>	会員の高齢化や役員の担い手不足により災害ボランティアの会が解散となってしまった。災害ボランティア養成講座を開催することができたが、受講者数が少なく、今後は周知方法を検討し受講後のボランティア登録につなげる必要がある。					
	<b>今後の目標等</b>	他の分野で活動しているボランティアに災害時に活動できるか否かを聞き取り、ボランティア登録者数を増やしていく。					

社協の役割	取り組み・事業名等		R2	R3	R4	R5	R6
災害時のボランティアに学生が参画できるように、桐生大学や大間々高校との連携を検討します。	桐生大学との連携	評価	B	A	C		
	大間々高校との連携	評価	E	B	A		
	成果と課題	学生を対象とした災害ボランティア講座を開催し、大間々高校と連携強化することができ、災害ボランティア以外の活動紹介をすることができた。桐生大学の学生は、テストの時期と重複し参加が困難であり、開催時期や方法を検討する必要がある。					
	今後の目標等	年間を通して、市内の学生が参加できるような企画を検討し、ボランティア登録につながるようにしていく。					
<p>A 前年度より成果・内容等が充実した  B 新たに取り組んだ  C 前年度と同様の成果・内容で実施した  D 前年度より取り組みが不十分であった  E 検討・調査・研究にとどまり、実施には至らなかった  F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した  G 実施年度、または調査年度に該当しなかった</p>							

# 基本目標 1 みんなが輝いて暮らせる地域づくり

## 活動方針 (2) 地域で生活に困っている人への対応

<b>現状と課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近所づきあいが希薄化しています。</li> <li>・ 孤立している人やひとり暮らしが心配な高齢者、貧困で困っている人がいます。</li> <li>・ 自動車を運転できない人が通院や買い物などへ行く際の交通手段に困っています。</li> <li>・ 自殺や孤独死の防止、再犯防止への対応が必要です。</li> </ul>
--------------	---

社協の役割	取り組み・事業名等	R2	R3	R4	R5	R6		
立ち直ろうとしている人たちを見守る更生保護活動に協力します。	社会を明るくする運動	評価	F	C	A			
	保護区保護司会、更生保護女性会の活動支援・協力	評価	F	C	A			
	成果と課題	保護区保護司会、更生保護女性会は、事業縮小や開催方法を変更し研修会等に参加し、情報の共有化を図ることができた。						
	今後の目標等	のぼり旗やポスターでの周知啓発を引き続き行い、保護司・更生保護女性会との連携を図りながら活動の支援・協力をする。						
生活困窮世帯の自立に向けて適切な資金貸付と相談支援に努めます。	各種福祉資金貸付世帯訪問回数 (目標値 70 回)	実績値	8回	8回	28回			
		評価	F	C	A			
	小口生活資金貸付事業	評価	C	C	A			
	法外援護費支給事業	評価	A	C	C			
	生活福祉資金貸付事業	評価	C	C	C			
	生活福祉資金貸付事業 特例貸付	評価	B	C	C			
	行路人貸付事業	評価	C	C	C			
成果と課題	新型コロナの影響で失業者や収入の減少する世帯に対し、相談及び貸付等で援護を行うことができた。また、食料などの物品支援を上手に活用することもできた。借受人の世帯訪問を県社協と同行訪問を行い状況把握することができたが、実際に会うことができる世帯は少ない状況である。多くの世帯が貸し付けだけでは解決できない課題を抱えており、生活困窮者自立相談支援機関との連携をより密にしながら、自立に向けた支援を行う必要がある。							
今後の目標等	貸付事業だけでは対応できないケースが多いため、生活困窮者自立支援機関と情報共有し必要に応じて重層的支援体制整備事業につなげていく。							
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">                     A 前年度より成果・内容等が充実した                      B 新たに取り組んだ                      C 前年度と同様の成果・内容で実施した                      D 前年度より取り組みが不十分であった                 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">                     E 検討・調査・研究にとどまり、実施には至らなかった                      F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した                      G 実施年度、または調査年度に該当しなかった                 </td> </tr> </table>							A 前年度より成果・内容等が充実した B 新たに取り組んだ C 前年度と同様の成果・内容で実施した D 前年度より取り組みが不十分であった	E 検討・調査・研究にとどまり、実施には至らなかった F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した G 実施年度、または調査年度に該当しなかった
A 前年度より成果・内容等が充実した B 新たに取り組んだ C 前年度と同様の成果・内容で実施した D 前年度より取り組みが不十分であった	E 検討・調査・研究にとどまり、実施には至らなかった F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した G 実施年度、または調査年度に該当しなかった							

## 基本目標 1 みんなが輝いて暮らせる地域づくり

### 活動方針 (3) 地域で高齢者・障がい者・子どもを守り支える仕組みづくり

<b>現状と課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢になったり、障がいがあっても地域で暮らし続けられるか心配です。</li> <li>・ 子育て支援をより充実させることが求められています。</li> <li>・ 子どもを安心して遊ばせる場所が少ない状況です。</li> <li>・ 日常生活に支援が必要な高齢者や障がい者（児）が安心して生活が送れるよう支援が必要です。</li> </ul>
--------------	--

社協の役割	取り組み・事業名等	R2	R3	R4	R5	R6
地域が主体的に実施する健康づくり活動を支援します。	各種軽スポーツ用具の貸出件数 (目標値 70 件)	<b>実績値</b> 26 件	17 件	39 件		
	<b>成果と課題</b>	<b>評価</b> A	C	C		
	<b>今後の目標等</b>	地域のサロンや交流事業での軽スポーツの活用や、チラシ配架を行い、新たな用具の貸出につながった。用具の点検を行い、老朽化した用具の再購入を必要に応じ行うことができた。しかし、貸出目標値には至っておらず、案内方法や品目の検討を行っていく。				
障がいのある人の日常生活を支援します。	福祉車両貸出件数 (目標値 140 件)	<b>実績値</b> 91 件	62 件	47 件		
	<b>成果と課題</b>	<b>評価</b> A	C	C		
	各種日常生活用具貸出件数 (目標値 80 件)	<b>実績値</b> 31 件	30 件	25 件		
	<b>成果と課題</b>	<b>評価</b> A	C	C		
	思いやり駐車場の利用証交付	<b>評価</b> C	C	C		
	<b>今後の目標等</b>	<b>評価</b> C	A	B		
子育て中の世帯同士が交流できる場を周知し、利用促進を図ります。	若年ひとり親世帯等の交流活動 参加世帯数 (目標値 145 世帯)	<b>実績値</b> 13 世帯	22 世帯	13 世帯		
	<b>成果と課題</b>	<b>評価</b> F	C	C		
	母子寡婦会の活動支援	<b>評価</b> F	C	C		
	<b>今後の目標等</b>	ホームページを新しくしたことで、問合せや新規利用者が増加し、消毒等を徹底して安全に貸し出しすることができた。日常生活自立支援事業が基幹化したことで、桐生市社協からの移管があったが、事務や金融機関の変更手続きを問題なく行うことができた。				
	<b>今後の目標等</b>	事業所 (大間々支所) の移転の周知も含め、事業内容を社協だよりや Twitter 等を活用し情報提供を行う。				
	<b>今後の目標等</b>	ひとり親世帯が楽しめる事業を展開していく他、制度の情報提供や、悩み事などを聞き取り、事業に活かしていく。				

社協の役割	取り組み・事業名等		R2	R3	R4	R5	R6
地域住民と一緒に地域の支え合い活動について話し合う場に積極的に参加します。	協議体への参加		評価	F	F	A	
	成果と課題	会議を開催し、地域の実情を話し合うことができ、課題目標をあげることができた。成果までたどり着いていないため、メンバーのモチベーションの維持が困難になっている。					
	今後の目標等	実際の活動等に結び付け、参加者が積極的に取り組めるように検討していく。					
社協の役割	取り組み・事業名等		R2	R3	R4	R5	R6
交通事故による遺児の就学を経済的に援助します。	交通遺児就学援助金給付事業		評価	A	C	C	
	成果と課題	要綱改正し、対象者の申請方法を簡素化したが、対象者は居なかった。					
	今後の目標等	支給対象者に遺漏なく周知できるように関係機関との連携をしていく。					
高齢者や障がい者の権利擁護事業を推進します。	日常生活自立支援事業の自主運営（目標値 実施）	実績値	未実施	未実施	実施		
		評価	E	E	B		
	成年後見制度の認知度（目標値 45%）	実績値	—	—	—		
		評価	G	G	G		
	成果と課題	県社協及び桐生市社協の指導の下、必要な書類や利用者のケースをスムーズに移管することができた。債務者等の困難ケースの利用者において、専門員に負担がかかることがあった。					
今後の目標等	日常生活自立支援事業の周知に併せて成年後見制度の周知を行う他、研修等で専門員の自己研鑽を図り困難ケースの対応方法を学んでいく。						
A 前年度より成果・内容等が充実した B 新たに取り組んだ C 前年度と同様の成果・内容で実施した D 前年度より取り組みが不十分であった E 検討・調査・研究にとどまり、実施には至らなかった F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した G 実施年度、または調査年度に該当しなかった							



## 基本目標 2 地域課題が解決へとつながる仕組みづくり

### 活動方針 (1) 気づきを共有する仕組みづくり

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援が必要な人が地域にいるか分からないと感じている人がいます。</li> <li>・ 日常生活の中でお互いに気にかける関係づくりが必要です。</li> <li>・ 支援が必要な人の情報を把握する仕組みが必要になっています。</li> <li>・ 地域の課題をどこに相談したらいいか分からない人がいます。</li> </ul>
-------	---

社協の役割	取り組み・事業名等		R2	R3	R4	R5	R6		
地域福祉活動の関係者同士の情報交換や連携を支援します。	各地区福祉部会長会議の開催回数 (目標値 17回)	実績値	3回	7回	7回				
		評価	F	C	A				
	みどり市福祉部連絡会会議の開催回数 (目標値 4回)	実績値	1回	0回	2回				
		評価	F	F	A				
成果と課題	会議を開催したことで、各地区の情報交換を行い、「居場所づくり」における市全体の研修会を行うことに繋がった。また、笠懸地区においては視察研修を実施し、見識を高めることができた。								
今後の目標等	会議を開催し各地区の情報交換を行う他、市全体の福祉部活動を推進していくため、研修等の事業を支援していく。								
地域が進める見守り活動を支援します。	さざんかの会の活動支援	評価	F	F	—				
	ボランティア配食(笠懸地区)	評価	F	F	—				
	おせち料理配付事業※歳末事業	評価	F	A	C				
	敬老行事地区事業補助金交付	評価	A	C	C				
	地域福祉活動推進事業補助金交付	評価	A	C	C				
	福祉カレンダー配布事業※歳末事業	評価	C	C	C				
成果と課題	地域の見守り活動の必要性が広がり、敬老祝品は、高齢者のお宅に訪問して届ける地域が恒常化した。関係機関と連携を図り、市内各種の取組みを情報収集し、各地区へ情報伝達することで見守り活動等の充実に役立てる必要がある。								
今後の目標等	見守り活動を行う各地区の関係団体等と連携を強化し、安心した活動が行えるよう支援していく。								
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">                     A 前年度より成果・内容等が充実した                      B 新たに取り組んだ                      C 前年度と同様の成果・内容で実施した                      D 前年度より取り組みが不十分であった                 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">                     E 検討・調査・研究にとどまり、実施には至らなかった                      F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した                      G 実施年度、または調査年度に該当しなかった                 </td> </tr> </table>								A 前年度より成果・内容等が充実した B 新たに取り組んだ C 前年度と同様の成果・内容で実施した D 前年度より取り組みが不十分であった	E 検討・調査・研究にとどまり、実施には至らなかった F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した G 実施年度、または調査年度に該当しなかった
A 前年度より成果・内容等が充実した B 新たに取り組んだ C 前年度と同様の成果・内容で実施した D 前年度より取り組みが不十分であった	E 検討・調査・研究にとどまり、実施には至らなかった F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した G 実施年度、または調査年度に該当しなかった								

## 基本目標 2 地域課題が解決へとつながる仕組みづくり

### 活動方針 (2) 地域住民の課題や相談を包括的に受け止める体制整備

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 困ったことがあっても誰にも相談できない人が増えています。</li> <li>・ 地域からの孤立やひきこもりが心配な世帯があります。</li> <li>・ 困っている人が相談する場所が分かりにくい状況です。</li> <li>・ 市や関係機関の横断的な福祉・保健の相談支援体制を確立し、分かりやすく市民に知らせる必要があります。</li> </ul>
-------	---

社協の役割	取り組み・事業名等		R2	R3	R4	R5	R6
相談窓口の連携強化に努め、市民に広く周知します。	心配ごと相談	評価	F	C	C		
	群馬県ふくし総合相談支援事業	評価	B	C	C		
	成果と課題	一般相談では解決できない専門的な悩み事を、弁護士相談（法律相談）で対応することができた。また、相談員を対象とした研修会を実施することで、相談援助技術の向上に役立てることができた。相談日の受け入れ件数が決まっているため、対応することができない相談は、他機関へ紹介せざるを得ない状況があった。					
	今後の目標等	相談員の研修を毎年開催し、技術向上を図るほか、弁護士相談日の予約枠を超える相談件数を把握し検証を行う。					
福祉部内の情報の共有が円滑に行われるよう、支援します。	東町地区福祉部会長の支援	評価	F	C	C		
	大間々地区福祉部会長の支援	評価	F	C	C		
	笠懸町地区福祉部会長の支援	評価	F	C	A		
	成果と課題	会議を開催し情報交換ができた。また、笠懸地域は3年ぶりに視察研修を行い、地域福祉の意識向上に繋がった。					
今後の目標等	各地区の取り組み事業を会議のほか、広報やTwitterで積極的に発信し、情報共有を行っていく。						
様々な事業を通じて、支援が必要な人の情報を集めます。	おせち料理配付事業※歳末事業	評価	C	C	C		
	小口生活資金貸付事業	評価	C	C	C		
	心配ごと相談	評価	C	C	C		
	成果と課題	相談内容が複雑化するなかで、法改正などの最新情報や書籍購入等の環境整備を行うほか、心配ごと相談員の研修会を開催し、技術向上を図り相談に応じることができた。小口生活資金は2件完済があったが、長く返済していない借受人も多く、戸別訪問を実施しても、生活状況まで把握できない世帯もあり、各関係機関との情報共有が必要である。					
今後の目標等	課題を抱える世帯が増え、問題も多様化しているなかで、必要な世帯に対して関係機関との連携を強化して支援策を提示できるよう努めていく。						
<p>A 前年度より成果・内容等が充実した            B 新たに取り組んだ            C 前年度と同様の成果・内容で実施した            D 前年度より取り組みが不十分であった            E 検討・調査・研究にとどまり、実施には至らなかった            F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した            G 実施年度、または調査年度に該当しなかった</p>							

## 基本目標 2 地域課題が解決へとつながる仕組みづくり

### 活動方針 (3) 地域の課題を解決するための公私協働の実現

<b>現状と課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 制度の要件、サービスが合わず、対応できない事例があります。</li> <li>・ 子育てや介護など複合的な問題が絡み合う相談が増えています。</li> <li>・ 市などの相談支援機関が関係機関と連携を図っていく必要があります。</li> <li>・ 社会福祉法人に地域公益事業を行うことが義務付けられています。</li> </ul>
--------------	--

社協の役割	取り組み・事業名等		R2	R3	R4	R5	R6								
住民の支え合い活動の周知や活動を実施するボランティアを育成します。	ボランティア講座	評価	F	F	A										
	ボランティア団体等活動支援	評価	F	F	A										
	<b>成果と課題</b>	学生向け及び一般向けの災害をテーマとした講座を開催し、ボランティア活動の意識向上につなげることができた。しかし、参加者が少ないため、時期や内容等を検討し直す必要がある。また、各団体の高齢化や事業縮小傾向にあり存続が難しくなっているボランティア団体もある。													
	<b>今後の目標等</b>	学生や住民が気軽に参加できる講座を企画し、ボランティア登録数の増加につなげていく。													
地域の課題や潜在的な社会資源の発掘・開発に取り組み、包括的に支援する体制づくりに努めます。	協議体への参加	評価	F	F	A										
	群馬県ふくし総合相談支援事業	評価	B	C	C										
	<b>成果と課題</b>	第2層の協議体の活動が始まり、地域の課題について話し合いをもつことができたが、実際の活動までにはつながっていない状況である。													
	<b>今後の目標等</b>	定期的な会議を継続し、協議体の構成員のモチベーションを維持することで、実際の取り組みにつなげていく。群馬県ふくし総合相談支援事業は市内の法人施設との連携を取りまとめる役割を行う。													
地域の社会福祉法人が取り組む地域公益事業の情報を把握し、連携に努めます。	(仮称)社会福祉法人連絡会の設置 (目標値 設置済)	実績値	未設置	未設置	未設置										
		評価	E	E	E										
	群馬県ふくし総合相談支援事業	評価	B	C	C										
	<b>成果と課題</b>	他市社協の法人連絡会情報交換や設立式典に参加し情報収集を行った。その後、社協内部で、情報共有し検討するまでは至らなかった。また、群馬県ふくし総合相談支援事業については、要綱改正もあり、地区別連絡会や研修会に積極的に参加し、市内の法人と交流を図ることができた。													
<b>今後の目標等</b>	他市町村や他社会福祉法人と更なる情報収集・情報交換を行い、部署内で協議を行う。また、群馬県ふくし総合相談支援事業は、要綱改正に沿い、地域の法人の調整役や取りまとめを行う。														
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">A 前年度より成果・内容等が充実した</td> <td style="width: 50%;">E 検討・調査・研究にとどまり、実施には至らなかった</td> </tr> <tr> <td>B 新たに取り組んだ</td> <td>F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した</td> </tr> <tr> <td>C 前年度と同様の成果・内容で実施した</td> <td>G 実施年度、または調査年度に該当しなかった</td> </tr> <tr> <td>D 前年度より取り組みが不十分であった</td> <td></td> </tr> </table>								A 前年度より成果・内容等が充実した	E 検討・調査・研究にとどまり、実施には至らなかった	B 新たに取り組んだ	F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した	C 前年度と同様の成果・内容で実施した	G 実施年度、または調査年度に該当しなかった	D 前年度より取り組みが不十分であった	
A 前年度より成果・内容等が充実した	E 検討・調査・研究にとどまり、実施には至らなかった														
B 新たに取り組んだ	F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した														
C 前年度と同様の成果・内容で実施した	G 実施年度、または調査年度に該当しなかった														
D 前年度より取り組みが不十分であった															

## 基本目標 2 地域課題が解決へとつながる仕組みづくり

### 活動方針 (4) 福祉に関する情報伝達の充実

<b>現状と課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉の制度が分からず、必要なサービスをうまく利用できない人がいます。</li> <li>情報を入手するまで時間がかかります。</li> </ul>
--------------	--

社協の役割	取り組み・事業名等		R2	R3	R4	R5	R6		
社協だよりの発行時期や発行回数を見直し、多くの情報を提供できるよう努めます。	社協だよりの発行回数 (目標値 年6回)	<b>実績値</b>	4回	4回	4回				
		<b>評価</b>	C	A	C				
	<b>成果と課題</b>	社協各部署へ編集スケジュールを提示し実践したことで、原稿作成がスムーズに行うことができた。発行回数は例年通り4回であったが、昨今の物価高騰により、目標の年6回発行が困難な状況である。							
	<b>今後の目標等</b>	各部署と連携・協力を図りながら、多くの情報を提供できるように掲載していく。また、発行回数は、物価高騰もあり予算を勘案しながら見直していく。							
さまざまな機会を通じて、福祉関連情報を提供します。	社協だよりの	<b>評価</b>	C	C	A				
	ホームページ	<b>評価</b>	A	A	A				
	福祉カレンダー配布事業※歳末事業	<b>評価</b>	C	A	A				
	<b>成果と課題</b>	社協だよりのホームページで情報を提供する他、新たにTwitterを活用しリアルタイムな情報を伝えることができ、それによって事業の参加申込につながった。さまざまな、情報媒体を活用し、年齢層にあった周知方法を検討していく。							
	<b>今後の目標等</b>	幅広い年齢層、分野、地域の方が情報を得る手段の一つであることを意識し、今後も見やすく分かりやすい紙面・ホームページとなるよう作成する。また、インターネット申込を拡充させていく。							
障がいのある人でも入手できる情報発信に努めます。	視覚障がい者等録音資料貸出事業利用件数 (目標値 8件)	<b>実績値</b>	0件	0件	0件				
		<b>評価</b>	F	F	A				
	<b>成果と課題</b>	朗読ボランティアの活動は休止中であったが、会員全体へ再開に向けてのアンケートを実施し、意見を集約することができた。また、利用者の実態把握を行うことができた。それにより、録音方法をテープからパソコン編集で行うことが決まり、今後は勉強会等を行う必要がある。							
	<b>今後の目標等</b>	録音方法をテープからパソコン編集へ移行するため、会員同士での勉強会や情報共有等行えるよう支援していく。							
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;">                     A 前年度より成果・内容等が充実した                      B 新たに取り組んだ                      C 前年度と同様の成果・内容で実施した                      D 前年度より取り組みが不十分であった                 </td> <td style="width: 50%; border: none;">                     E 検討・調査・研究にとどまり、実施には至らなかった                      F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した                      G 実施年度、または調査年度に該当しなかった                 </td> </tr> </table>								A 前年度より成果・内容等が充実した B 新たに取り組んだ C 前年度と同様の成果・内容で実施した D 前年度より取り組みが不十分であった	E 検討・調査・研究にとどまり、実施には至らなかった F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した G 実施年度、または調査年度に該当しなかった
A 前年度より成果・内容等が充実した B 新たに取り組んだ C 前年度と同様の成果・内容で実施した D 前年度より取り組みが不十分であった	E 検討・調査・研究にとどまり、実施には至らなかった F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した G 実施年度、または調査年度に該当しなかった								

## 基本目標 3 地域福祉活動の担い手づくり

### 活動方針 (1) 地域福祉の意識向上と仲間づくり

<b>現状と課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域で交流の機会が減っています。</li> <li>・ ゴミ捨てのマナーやペットの飼い方などのルールが守れない人がいます。</li> <li>・ 地域活動に参加する人が固定化していて、いっどこで活動があるのか分からない人がいます。</li> <li>・ 地域に住む外国人が増えています。</li> </ul>
--------------	---

社協の役割	取り組み・事業名等		R2	R3	R4	R5	R6
お互い様の地域福祉活動の啓発を行い、助け合う意識や地域福祉について学ぶ機会を推進します。	ボランティア講座	評価	F	F	A		
	成果と課題	「災害」をテーマに学生や一般向けに講座を実施することができ、地域の防災について理解を深めることができた。ただ、参加人数が少なかったため、周知方法や講座の開催期間等を検討し見直す必要がある。					
	今後の目標等	開催時期・内容・対象等を再検討し、住民が気軽に参加できる講座を企画していく。					
学校や地域福祉団体と協力し、福祉教育に取り組みます。	児童・生徒の福祉教育推進事業	実績値	100%	75%	72%		
	申請校の割合 (目標値 100%)	評価	C	C	C		
	各種福祉体験用具貸出件数 (目標値 20 件)	実績値	13 件	11 件	9 件		
		評価	C	C	C		
	認知症サポーター小学生養成事業	評価	—	—	E		
	成果と課題	校長会へ出席し、事業の案内を行い、福祉に対する関心を持ってもらうことができた。認知症サポーター養成事業では、講師となるための研修を職員が受講し、また、事業の要綱を制定し校長会で依頼することができた。					
今後の目標等	定期的に校長会で事業案内を行い、認知症サポーター養成事業の申請を受け付け、講座を実施し福祉教育に取り組んでいく。						
地域で行われる仲間づくり、地域福祉活動、世代間交流の場を支援します。	地域福祉活動推進事業補助金交付	評価	A	C	C		
	成果と課題	感染対策を行い、趣向を凝らし世代間交流事業を行う区が増加し、軽スポーツ用具などの貸出支援も行うことができた。町内の情報交換は、会議等で行うことができたが、市全域への情報提供が不十分であった。					
	今後の目標等	各地区の事業を把握し、交流や仲間づくりの場に繋がるような活動ができるように情報発信をしていく。					

社協の役割	取り組み・事業名等	R2	R3	R4	R5	R6
老人クラブ、障がい者（児）団体、母子寡婦会などが実施する社会性が高まるような団体活動や団体間の交流活動を支援します。	老人クラブの活動支援	評価	F	C	C	
	身障者連盟の活動支援	評価	F	F	F	
	手をつなぐ育成会の活動支援	評価	F	F	F	
	母子寡婦会の活動支援	評価	F	C	C	
	喫茶ぺちやくちゃの運営支援	評価	A	F	F	
	各種福祉団体県大会等参加支援事業	評価	B	C	C	
<b>成果と課題</b>	講習会など、事業を開催し交流を図ることができたが、会員の高齢化や新規会員の減少により、各団体の活動が困難になってきている。また、喫茶ぺちやくちゃの運営は、単発での営業を行うことしかできなかった。					
<b>今後の目標等</b>	各種福祉団体の会員の意見を取り入れ、事業の支援や会員加入促進を支援していく。また、喫茶ぺちやくちゃの運営については、従事者不足もあり状況を見極め営業していく。					
A 前年度より成果・内容等が充実した B 新たに取り組んだ C 前年度と同様の成果・内容で実施した D 前年度より取り組みが不十分であった E 検討・調査・研究にとどまり、実施には至らなかった F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した G 実施年度、または調査年度に該当しなかった						

## 基本目標 3 地域福祉活動の担い手づくり

### 活動方針 (2) 地域住民が集う拠点整備と既存施設の活用

<b>現状と課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気軽に利用し、交流できる場が必要になっています。</li> <li>・ 気軽に仲間づくりをできる場が必要になっています。</li> <li>・ 公共施設だけでなく、企業などの民間施設の活用も求められます。</li> </ul>
--------------	--

社協の役割	取り組み・事業名等		R2	R3	R4	R5	R6		
公民館など既存施設で活動している団体の啓発を行います。	ボランティア登録団体の啓発	評価	F	A	C				
	喫茶ぺちやくちゃの運営支援	評価	A	F	F				
	<b>成果と課題</b>	ボランティアセンターに登録している団体の活動を社協だよりやTwitterで周知を行い、会員の活動意欲を向上することにつながったが、一方で、高齢化等の理由により、解散となった団体もあった。喫茶ぺちやくちゃの運営は、コロナ禍の営業となり、単発でできる期間に営業を行った。							
	<b>今後の目標等</b>	市と連携しながら、ボランティア団体や活動の情報を収集していく。							
地域で気軽に集い交流を深める居場所づくりについて住民が学べる機会を作ります。	研修会等の開催	評価	E	E	A				
	<b>成果と課題</b>	福祉部主催の、自主サロンの実践に役立つ研修を支援し、参加者に居場所づくりや交流の重要性を学ぶ機会をつくることのできた。							
	<b>今後の目標等</b>	住民が分かりやすい研修会を開催し、学びの機会を増やしていく。							
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">                     A 前年度より成果・内容等が充実した                      B 新たに取り組んだ                      C 前年度と同様の成果・内容で実施した                      D 前年度より取り組みが不十分であった                 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">                     E 検討・調査・研究にとどまり、実施には至らなかった                      F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した                      G 実施年度、または調査年度に該当しなかった                 </td> </tr> </table>								A 前年度より成果・内容等が充実した B 新たに取り組んだ C 前年度と同様の成果・内容で実施した D 前年度より取り組みが不十分であった	E 検討・調査・研究にとどまり、実施には至らなかった F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した G 実施年度、または調査年度に該当しなかった
A 前年度より成果・内容等が充実した B 新たに取り組んだ C 前年度と同様の成果・内容で実施した D 前年度より取り組みが不十分であった	E 検討・調査・研究にとどまり、実施には至らなかった F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した G 実施年度、または調査年度に該当しなかった								

## 基本目標 3 地域福祉活動の担い手づくり

### 活動方針 (3) 地域住民・ボランティア団体・NPO 等の地域福祉活動の活性化

<b>現状と課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボランティアへの関心が低くなっています。</li> <li>・ ボランティアセンターの活動内容が広く市民に周知されていません。</li> <li>・ 市民が気軽にボランティア活動に取り組める環境づくりが必要です。</li> </ul>
--------------	--

社協の役割	取り組み・事業名等	実績値	R2	R3	R4	R5	R6	
ボランティアセンターの活動を強化します。	ボランティア個人登録（ボラ活動保険加入者）数（目標値 40 人）	実績値	5 人	3 人	8 人			
		評価	F	C	C			
	ボランティア団体登録（ボラ活動保険加入団体）数（目標値 35 団体）	実績値	25 団体	20 団体	18 団体			
		評価	C	C	C			
	コーディネート件数（目標値 30 件）	実績値	0 件	1 件	6 件			
		評価	F	F	C			
	ボランティアセンターの活動強化	評価	F	F	C			
	成果と課題	社協だより等でボランティア団体の活動の紹介を積極的に行い、問合せがあった活動へコーディネートすることができた。しかし、ボランティア活動先やボランティア登録の増加にはつながらなかった。						
	今後の目標等	ボランティア講座の開催や、市と連携しボランティア団体を発掘することで、登録数の増加を図るとともに、ボランティアの活動先の拡充を図っていく。						
	地域のニーズに即したボランティアの各種講座を行い、担い手を育成します。	ボランティア講座の受講者数（目標値 100 人）	実績値	0 人	0 人	25 人		
評価			F	F	A			
ボランティア団体等活動支援		評価	F	F	C			
成果と課題		教育機関（桐生大学・大間々高校）と連携した講座や災害ボランティア養成講座を実施することができた。受講をきっかけに、高校生の新たなボランティア活動や一般の受講者のボランティア登録につながった。						
今後の目標等		開催時期・内容等を検討し、住民が気軽に参加できる講座を企画することで受講者数を増やしていく。						
さまざまな機会を通じてボランティアグループの活動を啓発し、市民の関心を高めて、仲間づくりを支援します。		福祉に関するボランティアに関心がある割合（目標値 60%）	実績値	—	—	—		
			評価	G	G	G		
ボランティアの活動経験がある割合（目標値 40%）		実績値	—	—	—			
		評価	G	G	G			
社協だよりでのボランティア活動の紹介		評価	C	A	C			
成果と課題	災害をテーマとしたボランティア講座を主に開催したことで、市民に学んでいただく機会を作ることができた。社協だよりで、ボランティア団体を紹介したことにより、新たな会員の増加につなげることができた。							
今後の目標等	住民がボランティアに関心を持ってもらえるような、さまざまな分野の講座を企画するとともに、社協だよりや Twitter 等で活動の周知を行い啓発していく。							



社協の役割	取り組み・事業名等		R2	R3	R4	R5	R6
NPO活動の情報を収集します。	NPO活動の情報を収集 (R3 より)	評価	—	A	E		
	成果と課題	事業の開催の機会がなく、NPO活動の情報収集をすることができなかった。					
	今後の目標等	市内の施設、NPO法人、市などの関連施設と連携を図り、情報収集をする。					
社協事業で積極的にボランティアを受け入れるなど、ボランティア活動先の発掘と拡充に努めます。	ボランティアセンターの活動強化	評価	F	F	A		
	社協事業・運営施設でのボランティア受け入れ	評価	F	C	A		
	朗読ボランティアの活動強化	評価	F	E	A		
	成果と課題	農家より子ども食堂への食材提供の相談を受け、連絡調整を行いつながることができた。また、大間々高校と連携することで、街頭募金活動につながることができた。					
	今後の目標等	ボランティア活動を実践するための場を紹介できるように、情報収集と開拓を行っていく。					
ボランティアのやりがいが高まるような仕組みづくりや社会教育分野との連携など、ボランティアが活性化する方策について検討します。	ボランティアセンターの活動強化	評価	F	B	A		
	ボランティア団体等活動支援	評価	F	F	A		
	朗読ボランティアの活動強化	評価	F	E	A		
	成果と課題	学生向けのボランティア講座を開催し、市内の高校と連携強化をすることができた。また、朗読ボランティアは再開に向けたアンケートを実施し意見を集約することができ、次年度に向けた活動を検討した。					
	今後の目標等	講座や教育分野と連携したボランティア活動を検討する他、朗読ボランティアの新たな録音方法に変更していくため、会員同士の勉強会や情報共有を行える場を設けていく。					
A 前年度より成果・内容等が充実した B 新たに取り組んだ C 前年度と同様の成果・内容で実施した D 前年度より取り組みが不十分であった E 検討・調査・研究にとどまり、実施には至らなかった F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した G 実施年度、または調査年度に該当しなかった							

## 基本目標 3 地域福祉活動の担い手づくり

### 活動方針 (4) 民生委員・児童委員活動の充実に向けた環境整備

<b>現状と課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 民生委員・児童委員の活動が市民にあまり知られていない状況です。</li> <li>・ 地域福祉活動の担い手である民生委員・児童委員のなり手が少ない状況です。</li> <li>・ 民生委員・児童委員が行う活動の負担が大きくなっています。</li> </ul>
--------------	--

社協の役割	取り組み・事業名等	R2	R3	R4	R5	R6
民生委員・児童委員協議会と連携して地域福祉を推進していきます。	福祉カレンダー配付事業※歳末事業	評価	C	C	C	
	おせち料理配付事業※歳末事業	評価	C	C	C	
	生活福祉資金貸付事業	評価	C	C	C	
	成果と課題	おせち料理配付事業や福祉カレンダーの配付事業等により、民生委員と地域の一人暮らし高齢者の情報を共有することができた。また、生活福祉資金貸付事業では、借受人への支援が滞らないように、円滑に引き継ぐことができた。				
今後の目標等	引き続き民生委員・児童委員の活動に寄り添いながら、事業への協力強化に努める。					
<p>A 前年度より成果・内容等が充実した            B 新たに取り組んだ            C 前年度と同様の成果・内容で実施した            D 前年度より取り組みが不十分であった            E 検討・調査・研究にとどまり、実施には至らなかった            F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した            G 実施年度、または調査年度に該当しなかった</p>						

## 基本目標 4 福祉の基盤づくり

### 活動方針（1）地域福祉推進の強化

<b>現状と課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社協の活動を市民に知らせることが必要であり、組織力の強化が求められています。</li> <li>・ 社協が地域の実情や課題に合った事業を展開することが求められています。</li> <li>・ 福祉活動を継続実施するためには、縦割りの事業を見直し、整理することが必要です。</li> </ul>
--------------	---

社協の役割	取り組み・事業名等		R2	R3	R4	R5	R6
自主事業や受託事業、施設の指定管理の見直しを図るとともに社協組織体制を強化します。	社協組織体制の見直し	評価	E	A	B		
	成果と課題	住民への混乱や影響を最小限に抑え、介護事業所の統合、在宅福祉センターの新設を行うことができた。					
	今後の目標等	大間々支所の移転に伴い、支所機能の強化を図り、市民サービス向上に努める。					
多様な福祉課題に対応できる人材の確保・育成、財源の確保に努めます。	職員研修の充実	評価	C	B	D		
	資格取得費用の補助	評価	B	C	C		
	成果と課題	事業に必要なスキルアップ研修等に積極的に参加し、資質向上を図ることができた。					
今後の目標等	各部署や事業に必要な研修への参加や人材育成につながる研修への参加を促す。また、職員各自でも資格取得等自己研鑽に努める。						
積極的に地域に出向き、地域の実情や課題の把握に努めます。	地域活動への訪問支援回数（目標値 366 回）	実績値	0 回	1 回	212 回		
		評価	F	F	A		
	成果と課題	地域での行事やサロンに参加し、社協だよりや Twitter で活動内容を発信するほか、地域の活動について相談支援を行うことができた。各地区とも、担い手の高齢化による活動の存続問題を抱えていた。					
今後の目標等	地域に積極的に赴き、現状把握を行い課題の整理を行っていく。						
生活支援体制整備事業の協議体などを活用し、幅広い関係者による地域福祉活動計画の推進を検証します。	地域福祉活動計画の推進検証	評価	C	C	C		
	計画に基づく活動の実践	評価	F	F	A		
	成果と課題	協議体が再開され、地域の問題解決に向けて話し合いがされたが、社協が作成した計画を検証するまでは至らなかった。					
今後の目標等	第 2 層協議体に社協が作成した計画実施状況の自己評価資料を提示し、住民の立場から意見を聴取する。						
<p>A 前年度より成果・内容等が充実した            B 新たに取り組んだ            C 前年度と同様の成果・内容で実施した            D 前年度より取り組みが不十分であった            E 検討・調査・研究にとどまり、実施には至らなかった            F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した            G 実施年度、または調査年度に該当しなかった</p>							

## 基本目標 4 福祉の基盤づくり

### 活動方針 (2) 地域づくりや福祉課題解決のための財源の確保

<b>現状と課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続的な地域福祉推進のための財源を確保し、活用していく必要があります。</li> <li>共同募金をはじめとする募金活動への理解がより深まるように、地域が必要としている福祉活動への配分に努める必要があります。</li> </ul>
--------------	--

社協の役割	取り組み・事業名等		R2	R3	R4	R5	R6
社協活動への市民の理解を求め、会員加入を促進します。	社協会員加入率 (目標値 80%)	実績値	71%	71%	70%		
		評価	C	C	C		
	成果と課題	目標値を達成することができなかったが、社協公式 Twitter を使用し、新たな角度で社協事業の周知に努めることができた。集合住宅や外国籍の人など、行政区と関係が薄い方などのように理解をしていただき会員加入に結び付けるか課題である。					
	今後の目標等	SNS 等を使い、社協の活動を PR するとともに啓発用チラシを工夫することで、会費の使途に理解いただき会員加入率をあげて行く。					
共同募金会と連携して共同募金運動の市民への理解が深まるよう啓発します。	赤い羽根共同募金協力世帯の割合 (目標値 76%)	実績値	70%	69%	69%		
		評価	C	C	C		
	地域歳末たすけあい募金協力世帯の割合 (目標値 73%)	実績値	68%	68%	68%		
		評価	C	C	A		
	成果と課題	赤い羽根共同募金、地域歳末たすけあい募金は協力世帯の割合が目標に届かなかったが、新たに、大間々高校による地域歳末たすけあい募金の街頭募金への協力を仲介し、共同募金運動の推進と啓発に寄与することができた。					
	今後の目標等	共同募金の配分を受けた事業を、分かりやすいように PR し、住民に理解を得られるようにしていく。					
社協会費や共同募金の配分金などを有効に活用し、地域福祉の推進を図ります。	社協会費の活用	評価	C	A	A		
	赤い羽根共同募金配分金・地域歳末たすけあい募金配分金の活用	評価	F	A	A		
	善意銀行預託金品の活用	評価	A	C	A		
	成果と課題	会費を活用しホームページのリニューアルにより、各種申請紙をダウンロードできる環境の充実や、Twitter のリンク機能を整備しリアルタイムに情報提供できるよう努めた。歳末行事助成金配分の活用では、施設の実利用者割で見直しを行い、公平性を高めることができた。善意銀行は、市内の各法人施設に希望調査を行い、適切にタオルの払出を行ったほかウクライナ避難者支援等に必要時に速やかに対応することができた。					
		今後の目標等	物価の高騰や対象者の増加に対応した、事業の継続ができるように検討見直しを行い、有意義な活用ができるように努める。引き続き、寄付物品の適宜払出を行い寄付金品の有効的な払出を検討していく。				
		A 前年度より成果・内容等が充実した B 新たに取り組んだ C 前年度と同様の成果・内容で実施した D 前年度より取り組みが不十分であった		E 検討・調査・研究にとどまり、実施には至らなかった F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した G 実施年度、または調査年度に該当しなかった			

